

施設紹介

熊本県果樹試験場



場長以下34人の職員が果樹栽培における各分野の試験研究に努力し、果樹生産者とともに発展しようと張り切っている。

熊本県果樹試験場は、昭和六年に飽託郡河内村（現河内町）に創設されましたが、県下果樹界の要望にこたえるため、昭和四十七年、下益城郡松橋町の現在地に移転し、果樹栽培に関する試験研究を進めております。

用地面積は本場（松橋）二五・五ha、育種部（宇土）一〇・八haで、全国的にもトップクラスの規模です。

機構と試験課題は次のとおりですが、場長以下総員三十四名が、それぞれの分野で、果樹生産者とともに発展しようをモットーとして、研究にはげんでいます。

◎常緑果樹部

温州ミカンや甘夏、ザボンなどの晩生カンキツ、ならびにビワについての栽培方法改善の試験。果実の貯蔵や加工に関する試験。

◎落葉果樹部

クリ、ナシ、ブドウ、モモ、ウメ、カキ等の新しい品種の特性や、本県での適応性の解明、ブドウのハウス栽培に関する試験。

◎育種部

ミカン類の周年供給をねらった早生種と晩生種の育成試験、特に温州ミカンに

かわる晩熟カンキツの優良系の選抜。

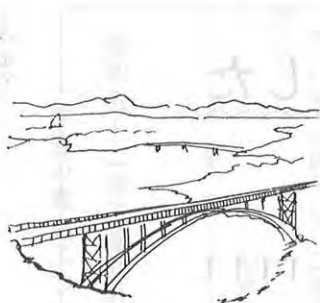
◎病虫害部

果樹の病気と害虫の防除方法の改善試験。特に農業一辺倒にならない防除法について。

◎化学部

果樹に対する肥料のやり方、果樹園土壌の地力向上等に関する試験。

なお、昭和二十三年、果樹園芸講習所を本場に併設して、果樹農業に従事する後継者、ならびに指導者を養成し、卒業生はすでに九百三十人をかぞえるようになりました。



このコーナーは県出身者で各界で活躍しておられる方を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

万全を期して試合に

明治大学教授 永松英吉

風雪に耐えて練習に励み、日本一の座をめざし、昭和九年には全日本学生チャンピオン、そして四年連続その王座を守り、日本ボクシング界の双葉山といわれ、ベルリンオリンピックの代表選手。

たくましく情熱的で太っ腹。ボクシングの話題になると、全身に力が入る。「万全を期して試合に」がモットーだと言う。

大正三年、熊本県塩屋町に生まれる。六人兄弟の二男坊。五福小、熊商、明治大学卒。現在、母校明治大学工学部教授として教鞭をとる一方、日本アマチュアボクシング界の陣頭に立って指導に当たっている。

八十四勝三敗、うち六十九KO勝五十九連勝の戦歴を持っている。

日本アマチュアボクシング連盟

常務理事

現住所 東京都新宿区大京町十番地

運動好きな少年

私はね、熊本の塩屋町の出身なんです。その頃は塩屋町の裏小路といっていたんですが、発展性がないということで塩屋町一番町と改名したらしいですね。そこは一新校区だったんですが、どういうわけか私の家は兄弟全部が五福校へ行ってしまっていてね。私も五福小学校に入っただんです。

とにかく子供の頃から運動が好きでした。子供ながらに運動は何でもかじってみました。あの頃、五高のトラックで学童オリンピックみたいなのがあったりしていました。五高のトラックは二百六十メートルで正式なものではなかったんですが、一番大きかったんですよ。そこで陸上競技をやったり、サッカーをしました。

そして五福小学校から熊商に進んだんです。熊商の時、全熊本の相撲大会がありましたね。私は大将で出場して優勝したんです。それで会場の水前寺から健軍の熊商まで優勝旗をかついで校歌をうたいたながら歩いて帰ったのを覚えていますよ。

内緒で始めたボクシング

上通りに田代屋という、今でいうなら小さなデパートがありましたね。そこが一時閉鎖していて、その管理人に草野栄利さんという方がおられたんです。こ